

能代市バスケの街づくり推進計画の点検及び推進に関する報告書

能代市バスケの街づくり推進委員会は、「能代市バスケの街づくり推進計画」の7～8年目の点検・推進を市と協働で行ってきました。その結果を報告します。

1 2年間の委員会の活動について

5～6年目までの実績や課題を踏まえ、改めてバスケの街づくり推進の必要性やバスケミュージアムの在り方について検討を進めてきました。また、平成30年度にはバスケミュージアムの所蔵品を一堂に展示した「バスケミュージアム大開放展」を市役所大会議室で実施し、連日、市内・県内外の多くの方が見学に訪れるなど、改めて、「バスケの街のしろ」を実感しました。

今年度は、「バスケの街のしろ」の知名度を活かし、さらなるバスケの街づくりを進めるため、委員会での検討のほか、関係団体やまちづくり団体等との意見交換会を2回開催し、バスケの街づくりやミュージアムの在り方について検討を行いました。

(1) バスケミュージアムの検証について

バスケの街づくりの推進、ミュージアムの必要性や在り方についての検証を行うとともに、所蔵品の展示及び確認を目的に、委員会が中心となって、平成31年1月11日（金）～14日（月）まで市役所大会議室にて能代バスケミュージアム大開放展を実施した。4日間の来訪者は1,116名で集客に有効な施設である。ミュージアムの充実は取り組むべき課題であり、平成31年3月8日（金）に市長へ「能代バスケミュージアム大開放展開催に関する報告書」を提出した。

(11日（金）142名、12日（土）257名、13日（日）333名、14日（月）384名)



(2) バスケの街づくり・バスケミュージアムの在り方についての意見交換の開催

令和元年5月にバスケの街づくり意見交換会、令和元年10月にはバスケの街づくり拡大意見交換会を開催した。外部から見たバスケの街づくりに対する率直な意見やバスケミュージアムについての意見交換を行った。

【5月参加団体】

- 市柳町商店街振興組合、市バスケットボール協会、能代青年会議所、の美シロダン、R-factor、秋田銀行能代支店、北都銀行能代支店、市体育協会、能代商工会議所青年部

【10月参加団体】

- 能代商工会議所、能代商工会議所青年部、能代青年会議所、市中心市街地活性化推進協議会、市金融懇談会（秋田銀行能代支店、北都銀行能代支店）、建設業能代山本建北会、能代山本建設業協会、市商店会連合



2 指標について

7～8年目については、6年目までの取り組みや現在のバスケの街づくりについて検証を行った。今後は10年計画の9年目の推進状況の点検に加え、これまでの10年間の総括や計画達成状況等の指標についても検討を進めることとする。

3 2年間の総括と今後の方向性

バスケの街づくり推進計画を進めて8年となったが、「バスケの街づくり」に対する市民の関心が低下傾向にある。しかしながら、競技関係者以外にも様々なイベントでバスケに関連した取り組みを行ったり、能代工業高校バスケットボール部の全国大会パブリックビューイングの際には、多くの市民が応援にかけつけるなど、潜在的には「バスケの街のしろ」の意識が定着しているものと考えられる。

そのため、バスケの街づくりに関する、さらなるPR、ミュージアムの機能強化、関連団体と連携したバスケイベントの拡大などを図るとともに、長期目標として設定された取り組みと実現の可能性を検討しながら、バスケの街づくり推進計画を進めていく必要がある。

(1) 「バスケの街」としての意識向上について

市民の能代市が「バスケの街」であるという誇りと意識を向上させるため、子どもから高齢者までの幅広い年代に対し、情報発信やイベント等の取り組みを継続して、関係団体、企業等と連携しながら一体感をもって行う必要がある。具体的には、「めんちoco誕生事業」のプレゼントに「名前入りバスケットボール」の追加や、新入学児童への記念品として「バスケの街のしろ」ロゴ入りTシャツの提供等、市の事業においても積極的にバスケを取り入れるよう検討して頂きたい。

また、東京オリンピック2020から正式種目となった3×3の環境を整備し、初心者やバスケットに関心がない人も、気軽にバスケが楽しめるイベントを企画するなど新たな取り組みを進める必要がある。

(2) まちづくりの核に位置付けたバスケミュージアムの整備（新築）について

バスケの街づくりを市のまちづくりの核として捉え、バスケに関連した資料を展示できる広いスペースを確保するとともに、バスケを楽しめる環境整備のほか、バスケットボールコート併設やコンベンション機能、カフェ、物販等、観光面でも拠点となる複合施設として、地域の活性化や経済効果を生むことのできるミュージアムの整備（新築）を早期に検討する必要がある。具体的な検討を行う組織の立ち上げが必要である。施設整備の場所についても、能代駅、東能代駅などの駅前の賑わいづくり等を考慮しながら、検討を進める必要がある。

(3) 競技力の向上及び地元が支える市民クラブチームの設立について

地元の子ども達が能代工業高校だけではなく、大学やノーザンハピネッツなどのプロチームで活躍するためにも、ジュニア世代の育成をミニバス、中体連という今までの考え方だけではなく、アンダーカテゴリーの育成型クラブチームの整備を検討する必要がある。

また、ジュニア世代からシニア世代までの全世代が参加でき、バスケを楽しめるよう地元が支える市民クラブチームの設立を検討する必要がある。検討にあたっては、市民や企業、関係団体、行政などが一体となったサポートの仕組みづくりを研究する必要がある。

令和2年3月18日

能代市長 齊藤 滋 宣 様

能代市バスケの街づくり推進委員会
委員長 大塚 和 敬